

第5学年 道徳科学習指導案

令和3年1月23日(土) 4校時

第5学年 1組齊藤友恵 2組田代義明 3組押本美緒 4組加藤聡

- 1 主題名 【 くじけないで A(5) 希望と勇気、努力と強い意志 】
- 2 教材名 「 世界最強の車いすテニスプレーヤー 一国枝慎吾 」
- 3 ねらい 目標をもち、困難があってもくじけずに努力しようとする実践意欲と態度を育てる。

4 展開

	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点
導 入	1 自分自身の経験を振り返る。 ○あなたはこれまでに、くじけそうになったことがありますか。それは、どんなことですか。 ・漢字の練習。何回書いても覚えられなくて、やめたくなる。 ・ダンスの練習。練習してもみんなより遅れてしまって合わせることができないと、向いていないのかと思ってしまう。	・なぜくじけそうになっているかも発表させる。 ・くじけそうになっていることを話すことに抵抗のある児童が多い場合は、教師自身の経験を話し、同じようなことがなかったか呼びかけ、思い浮かべさせる。
何かにくじけないために、大切なことは何だろう。		
展 開	2 「世界最強の車いすプレーヤー 一国枝慎吾」を読んで、話し合う。 ○記録会で負けた帰り道に「もう、やられてられないな。」といったとき、「ぼく」はどんなことを思っていたでしょう。 ・どうせやっても自分はだめだ。 ・がんばっても意味がない。 ・水泳もやめてしまいたいし、他のこともやる気がなくなったな。 ◎国枝選手の番組を見た後に「よし、やるしかないな。」と言ったとき、「ぼく」は、どんなことを思っていたでしょう。 ・自分もやればできるはずだ。 ・国枝選手のように、決して諦めず、目標に向かって努力しよう。 ・目標をもって進んでいくことが大切だ。 ○国枝選手の生き方から、あなたはどんなことを学びましたか。 ・目標に向かって、最後までくじけずがんばり通すことが大切だと思った。 ・高い目標を目指してがんばることが大事。 ・自分に勝つということなのだと思った。	・「ぼく」の気持ちを想像させるとともに、「これまでに、そのような経験がなかったか。」という補助発問をし、「ぼく」の気持ちを共感的にとらえることができるようにする。 ・文章や写真から「ぼく」は国枝選手のどのようところが素晴らしいと思ったのか考えさせ、「ぼく」の思いを想像させる。 ・児童が自分自身と比べながら国枝選手について見つめられるようにすることにより、自分の生き方を考えることにつなげられるようにする。 ・国枝選手の生き方を通して、自分がどのようにしていきたいか、どのような姿を目指しているかを考えさせる。
終 末	3 学習の振り返りをする。 ○今日の学習を通して考えたことを書きましよう。	・導入で考えたことも振り返るよう促す。 「つなげよう」を読み、大変なことにもくじけずに夢をかなえた人の伝記を紹介する。

5 評価

- ・自分の目標に向かって努力し続けるために大切にしていきたいことについて、考えることができたか。

○「世界最強の車いすテニスプレーヤー —国枝慎吾—」

○ねらい

今回の5年生の授業では、目標をもち、困難があってもくじけずに努力しようとする実践意欲と態度を育てることをねらいとしました。

○手立て

本資料は、水泳の記録会で友達に負けて投げやりになっていた「ぼく」が、車いすテニスの国枝慎吾選手の番組を見たことをきっかけに、再びやる気を取り戻す話です。「努力こそが自信につながる」「不安なときも再び自分を信じる」「ライバルは他の誰かではなく、1日前の自分だ」と言う国枝選手の姿に、登場人物の「ぼく」は「やるしかない」と、改めて自分の目標に向かって立ち向かう決意をします。

記録会で負けた「ぼく」の気持ちを想像させるとともに、児童にもこれまでの経験を想起させ、「ぼく」の心情を共感的に理解できるようにします。このことにより、教材に描かれている国枝選手の素晴らしさを感じられるようにしていきます。そして、国枝選手の生き方を見つめ、感じたことや考えたことを交流することを通して、自分自身の目標の達成や夢の実現のために、国枝選手から学んだことを実践しようとする意欲を高められるようにします。

○児童の様子

「記録会で負けた帰り道に「ぼく」はどんなことを思ったでしょうか。」という発問に対し、「がんばっても意味がない。」「自分はだめだ。」などと「ぼく」の立場に立って考えを出しました。自分の経験から「ぼく」に共感する児童が多く、興味関心をもって学習に取り組む様子が見られました。

国枝選手のことを知った「ぼく」の気持ちの変化を考えました。国枝選手の努力を知り、目標をもって進むことや他者と比較するのではなく、自分自身と競い合うことの大切さに気付きました。

今回の学習を通して学んだことを、今までの経験を振り返りながら「くじけそうになっても、あきらめずに練習する。」「努力した自分を信じる。」「目標に向かって挑戦し続ける。」と自分の言葉で書くことができました。多くの児童が、自分の目標に向かって努力し続けるために大切にしていこうとする態度が見られました。

